

# 2020年3月期 決算 説明資料

2020年5月15日  
日本貨物鉄道株式会社

**1. 2020年3月期 決算**

**2. 2021年3月期 業績見通し**

**3. 主な取組みの進捗状況**

# 1. 2020年3月期 決算

## 連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業収益	1,916	1,989	+72	+3.8
営業費用	1,858	1,888	+29	+1.6
営業利益	58	100	+42	+73.2
経常利益	45	89	+44	+98.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	-2	50	+52	-

## 単体経営成績

営業収益	1,558	1,610	+51	+3.3
営業費用	1,513	1,524	+10	+0.7
営業利益	44	85	+40	+91.9
経常利益	30	71	+41	+139.0
当期純利益	-9	39	+49	-

- 前期の「平成30年7月豪雨」等自然災害の影響から回復し、また収支改善のための運賃改定等の営業施策の推進の効果もあり、単体の運輸収入および子会社の利用運送事業収入が大幅に増加した。連結営業収益は増収、連結営業利益・経常利益ともに増益となり、連結営業利益は2期ぶりの100億円台、連結経常利益は89億円を確保。親会社株主に帰属する当期純利益も、大幅増益となり黒字を確保。(前期は「平成30年7月豪雨」の対応に伴う費用等の災害損失(24億円)を計上し、当期は「台風19号」の対応に伴う費用等の災害損失(3億円)を計上した。)

# 1. 2020年3月期 決算

## セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	1,672	1,778	+106	+6.4
	営業利益	-53	-12	+40	—
不動産事業	営業収益	251	224	-26	-10.7
	営業利益	109	112	+2	+2.2
その他	営業収益	109	102	-7	-7.1
	営業利益	0	-0	-0	—

## (単体) 事業別状況

鉄道事業	営業収益	1,355	1,429	+74	+5.5
	営業費用	1,417	1,454	+36	+2.6
	営業利益	-62	-25	+37	—
関連事業	営業収益	203	180	-22	-11.0
	営業費用	96	70	-25	-26.9
	営業利益	106	110	+3	+3.3

- 鉄道ロジスティクス事業は前年度の災害影響から回復し、営業施策（収支改善のための運賃改定等）の推進により増収増益。
- 不動産事業は、子会社の警備収入が増加したが、単体の分譲マンション収入（茅ヶ崎、八王子）の影響により減収増益。

# 1. 2020年3月期 決算

## 連結財政状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,057	4,177	+120	流動資産 707億円 (対前期末 +43億円) 固定資産 3,469億円 (対前期末 +76億円)
負 債	3,088	3,160	+71	
純 資 産	968	1,016	+48	
自己資本比率	22.6%	23.1%	+0.4	

## 連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	193	323	+130	+67.2
投資活動によるキャッシュ・フロー	-166	-200	-34	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	2	-57	-60	—
現金及び現金同等物の増減額	30	65	+35	+117.8
現金及び現金同等物の期末残高	271	336	+65	+24.1

- 営業活動によるキャッシュ・フローは利益の増により流入額が増加。投資活動によるキャッシュ・フローは固定資産の取得増で流出額が増加。財務活動によるキャッシュ・フローは長期借入金の返済により流出額が増加。現金及び現金同等物は65億円増加し、期末残高は336億円。

# 1. 2020年3月期 決算

## 単体財政状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前期末 増減	備考
資 産	3,688	3,816	+128	流動資産 533億円 (対前期末 +44億円) 固定資産 3,282億円 (対前期末 +84億円)
負 債	2,985	3,073	+88	当期末長期債務 1,613億円 (対前期末 -45億円) ・有利子債務 713億円 (対前期末 -15億円) ・無利子債務 899億円 (対前期末 -30億円)
純 資 産	703	742	+39	

## 単体キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	167	291	+123	+73.7
投資活動によるキャッシュ・フロー	-130	-165	-34	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	-10	-73	-62	—
現金及び現金同等物の増減額	25	52	+26	+103.0
現金及び現金同等物の期末残高	204	256	+52	+25.6

# 1. 2020年3月期 決算

## 設備投資の状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年同期	
			増減	%
鉄道ロジスティクス事業	154 (うちリース 27)	263 (うちリース 31)	+109	+70.7
不動産事業	26	47	+21	+80.7
その他	0	0	+0	—

## 主な設備投資

東京レールゲートWEST新設工事 (101億円)



(2020年2月竣工)

機関車新製 (42億円)



(EF210-300形式機関車)



(DD200形式機関車)

竜華寮用地開発 (7億円)



(2020年2月竣工)

# 1. 2020年3月期 決算

## 品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	対前年同期	
			増減	%
輸送量	29,222	29,542	+320	+1.0
コンテナ	20,273	20,768	+495	+2.4
農産品・青果物	1,771	1,792	+21	+1.1
化学工業品	1,831	1,846	+14	+0.7
化学薬品	1,336	1,371	+34	+2.5
食料工業品	3,422	3,412	-10	-0.3
紙・パルプ	2,666	2,545	-121	-4.5
他工業品	1,444	1,471	+27	+1.8
積合せ貨物	2,637	2,869	+231	+8.7
自動車部品	764	890	+125	+16.4
家電・情報機器	397	396	-1	-0.2
エコ関連物資	487	589	+101	+20.9
その他	3,513	3,584	+71	+2.0
車扱	8,949	8,774	-175	-1.9
石油	6,070	5,914	-156	-2.5
セメント・石灰石	1,405	1,393	-11	-0.8
車両	871	873	+1	+0.1
その他	601	593	-8	-1.3

- 前期の「平成30年7月豪雨」等自然災害の影響から回復し、**コンテナは多くの品目で前期を上回る**。特に、各地で鉄道へのシフトが進む**積合せ貨物**、**エコ関連**、新規輸送等が好調な**自動車部品が大幅に上回る**。



**1. 2020年3月期 決算**

**2. 2021年3月期 業績見通し**

**3. 主な取組みの進捗状況**

## 2. 2021年3月期 業績見通し

### 連結

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 見通し	対前年同期		参考 2020年度事業計画 (2020.3.31)
			増減	%	
営業収益	1,989	—	—	—	2,005
営業利益	100	—	—	—	110
経常利益	89	—	—	—	100
親会社株主に帰属する 当期純利益	50	—	—	—	58

### 単体

営業収益	1,610	—	—	—	1,629
営業利益	85	—	—	—	97
経常利益	71	—	—	—	86
当期純利益	39	—	—	—	51

- 2021年3月期の業績見通しは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による、世界経済及び日本経済の低迷に伴う減収などが見込まれますが、現時点で感染拡大の収束による輸送量の回復時期等、通期の業績に与える具体的な影響額を算定することが困難であるため未定としています。
- 参考欄には、新型コロナウイルス感染症拡大の前に策定した、2020年3月31日発表の2020年度事業計画の収支計画を記載しております。

**1. 2020年3月期 決算**

**2. 2021年3月期 業績見通し**

**3. 主な取組みの進捗状況**

## 3. 主な取組みの進捗状況

### ■ 2020年度の基本方針

2020年度は、「JR貨物グループ中期経営計画2023」の2年目として、更なる成長と発展に向けた具体策をスピードを上げて実行し、結果を出していく。

#### < 中期経営計画2023における5つの重点戦略 >

- ① 総合物流企業への進化
- ② 新規事業・新技術へのチャレンジ
- ③ 貨物鉄道輸送の役割発揮とさらなる収益性の向上
- ④ 新たな成長へ向かう不動産事業の展開
- ⑤ 経営基盤の強化

JR貨物グループのブランドメッセージである“Challenge and Change”のもと、グループ全体で共有して取り組む事項、グループ各社が連携して取り組む事項等、それらの課題・テーマの内容に基づき、JR貨物グループが、「One Group」として、変革にチャレンジする。

事業運営の基本としている「経営改革の3つの柱」（意識改革、計数管理改革、組織改革）のもと、物流・サプライチェーンにおけるJR貨物グループの事業領域を拡げ、社会に貢献する使命を持続的に果たしていく「鉄道を基軸とした総合物流企業グループ」への進化に向け取り組んでいく。

### 3. 主な取組みの進捗状況

#### ■ 総合物流企業グループへの進化

- 2019年度は、積替ステーションを新座貨物ターミナル駅に整備することを意思決定したほか、貨物駅の高度利用化については、約20箇所の候補地を選定し素案の策定を進めてきた（先行施工の東福山駅は、順調に工事を進め2020年8月竣工予定）。
- レールゲート開発では、2020年2月に「東京レールゲートWEST」が竣工。これにより、物流結節点機能が強化され、全国を繋ぐ鉄道ネットワークと相俟って、物流生産性の向上が図られ、「鉄道を基軸とした総合物流企業グループへの進化」に向けその第一歩を踏み出した。

#### (2020年度の主な取組)

- 駅ナカ・駅チカ倉庫、積替ステーションの設置検討  
ー保管機能としての「駅ナカ・駅チカ倉庫」、トラック輸送と鉄道輸送をスムーズにつなぐ「積替ステーション」の設置推進およびグループでの運営スキームの構築
- 貨物駅等の高度利用化による収益・利益拡大  
ー貨物駅構内等の不要設備の撤去、既存建物の合築等による用地生み出し対象箇所を選定、グランドデザインを策定し、詳細設計を推進
- グループ会社の業務についての共同営業の実施  
ー鉄道、トラック、倉庫等のプロジェクトを発足し、レールゲート事業とのコラボ拡充や新規開拓の実施

積替ステーションでの作業例



東福山駅 高度利用化



写真：Google

### 3. 主な取組みの進捗状況

#### ■ 総合物流企業グループへの進化

(2020年度の主な取組)

- 東京レールゲートWESTの本格稼働
  - ー2020年2月竣工し3月より本格稼働、貨物駅の物流結節点機能が強化、物流生産性の向上
  - ーテナントの満足度を高めることにより資産価値の向上を図る
- 東京レールゲートEASTの着工・着実な工事進捗管理
  - ー2020年11月着工に向け、現存するコンテナ複合施設の撤去、設計・施工を計画とおり推進、共同事業者との役割分担等の諸事項を整理、テナントリーシングを進める（2022年8月竣工予定）
- DPL札幌レールゲートの準備
  - ー共同事業者と2020年6月着工に向け最終調整を行ない、テナントリーシングを進める（2022年5月竣工予定）
- その他の物施設の開発（全国展開）
  - ー東北・東海・関西・九州に、既存エフプラザを加えた候補地等の確保に向け、グループ各社と、物流施設需要の調査・検討に着手

東京レールゲートWEST  
(2020年2月竣工)

東京レールゲートEAST  
(2022年8月竣工予定)



DPL札幌レールゲート（完成イメージ）



# 3. 主な取組みの進捗状況

## ■ 新規事業・新技術へのチャレンジ

(継続的な取組)

- 新たな柱となる事業を構築すべく、新規事業に挑戦  
— 「社会課題解決型事業」をキーワードに検討中の事業案の早急な絞り込み・構想策定
- 貨物駅の省力化に向けた検討  
— 駅構内トラックの隊列走行・無人運転、フォークリフト・入換機関車の遠隔操作等（移転後の仙台貨物ターミナル駅への導入を視野）
- 次世代コンテナ貨車導入に向けた検討・開発

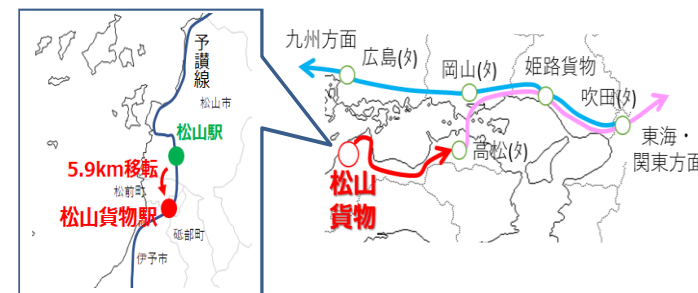
貨物駅の省力化（イメージ）



## ■ 鉄道輸送サービスの状況

(継続的な取組)

- 2020.3ダイヤ改正では、松山貨物駅のリニューアル開業に伴うお客様の利便性向上、ご利用ニーズが高い中長距離区間（東京～岡山等）の輸送力増強
- 貨物鉄道のご利用に積極的なお客様との勉強会実施
- eJMS・通販、温度管理を必要とする食品・薬品、住宅建材・設備等の業界をターゲットとした営業活動の推進



### 3. 主な取組みの進捗状況

#### ■ 災害発生時の対応策強化

- 2019年度は「平成30年7月豪雨」を契機に設置した「災害リスク検討会」を継続実施、講じてきた災害発生時の対応策を十分に発揮し、2019年10月 令和東日本台風時には、円滑な代替輸送体制を構築した。

(2020年度の主な取組)

- 代替輸送力・輸送手配におけるシミュレーションの更なる充実
- 代行トラックドライバーの宿泊施設および代行トラック駐車場における事前選定の継続実施
- 輸送機材のリダンダンシー確保（運用線区拡大に向けた車両の一部改造）
- 災害発生時への迅速な対応を図るための関係システム等の取扱教育の実施

トラック代行



船舶代行

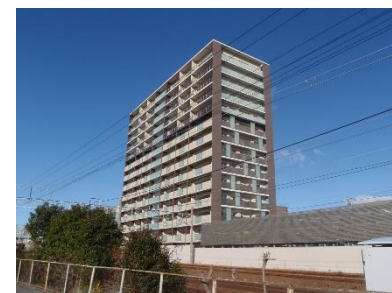


#### ■ 不動産事業の展開

(継続的な取組)

- 全国に点在する社宅用地、自社の未利用土地・建物を活用した新規開発の推進（プロジェクトチームを編成し早期の収益化）  
一 磐田駅北口分譲マンションの早期完売（2020年2月竣工）を図る
- 市場から取得した不動産物件による賃貸事業の推進

磐田駅北口分譲マンション



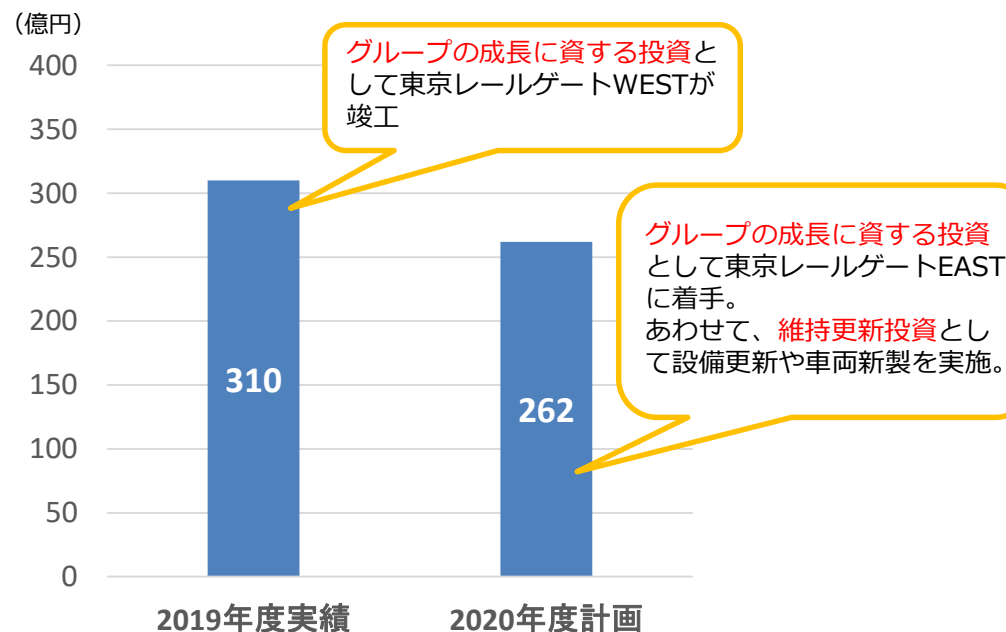
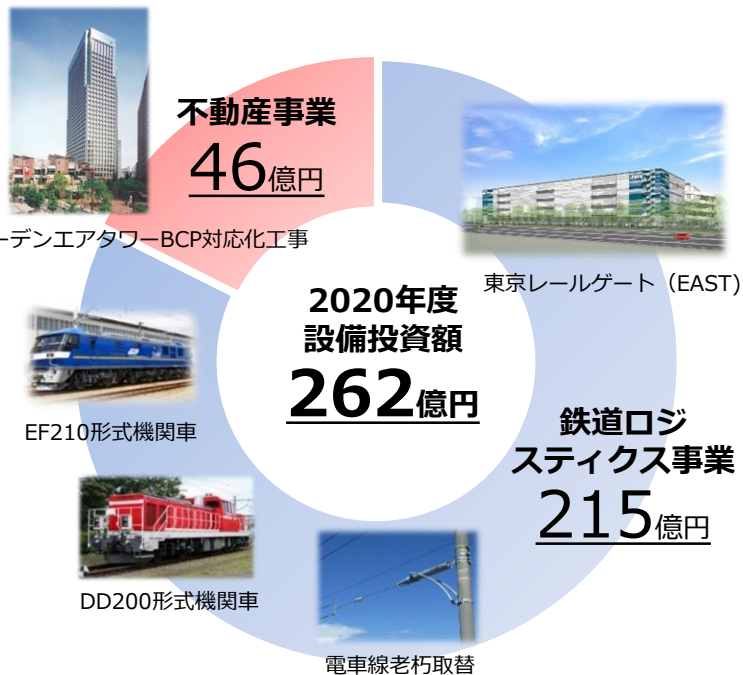


# 3. 主な取組みの進捗状況

## 設備投資の状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 計画	対前年同期	
			増減	%
鉄道ロジスティクス事業	263 (うちリース 31)	215 (うちリース 22)	-48	-18.2
不動産事業	47	46	-1	-2.1
その他	0	—	-0	—



〔当社グループの事業系統図〕

